

教職課程
自己点検評価報告書

令和5年3月

東京農業大学応用生物科学部

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの事例点検評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	7
III	「教職課程自己点検評価報告書」作成のプロセス	9
IV	現状基礎データ票	10

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：東京農業大学 応用生物科学部

(2) 所在地：東京都世田谷区桜丘 1 - 1 - 1

(3) 学生数及び教員数（令和4年5月1日現在）

学生数：教職課程履修者数 116 名／学部全体 2、404 名

教員数：教職課程科目（教職・教科計）担当 60 名／学部全体 81 名

2 特色

本学部は、動植物・微生物等が営む生命現象について理解と解析能力を高め、人と環境との共生の上に成り立つ生活を真に考究し、実践出来る人材育成を教育理念としている。本理念の達成に向け、生物、化学及び生物化学を基礎学問に据え、講義と実験実習、さらには卒業論文実験を通じて、学力の向上と国際的研究を目指す。

本学部を構成する学科と認定されている免許教科は下表のとおりである。

学科	栄養教諭一種免許状 (小学校・中学校)	中学校教諭一種免 許状	高等学校教諭一種 免許状
農芸化学科	—	理科	理科・農業
醸造科学科	—	理科	理科
食品安全健康学科	—	理科	理科・農業
栄養科学科	栄養	理科	理科

上記の免許状取得のため教職課程では、教育意欲に溢れ、理科、農業及び栄養に関する専門知識を持ち、学校現場に対応できる実践的指導力を身につけた教員の養成を、全学的な協力・指導体制のもと各学科で行っている。

各学科の教職課程の理念等

○農芸化学科

本学の教育理念である「実学」の精神を授業に取り入れ、中等教育の授業や体験授業を指導できる理科教員及び農業教員を養成する。すなわち、科学に関するニュースなどを論理的に理解し、重要なポイントを抽出し、高校生や中学生に正確に伝達できる教員の育成を目指している。

○醸造科学科

「知識基盤社会」の時代と言われる状況において、求められる確かな学力、豊かな心及び健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことができる教員の養成を目指している。醸造という身近な自然の事物・現象を通して、目的意識を持った観察や実験を行い、科学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究する能力と態度を育て、科学的な自然観を育成する教員を養成する。

○食品安全健康学科

本学科は、幅広い教養と高度な専門知識と技術を備え、問題の本質を正確に捉えて合理的に問題解決に導く能力を有する教員養成を目指している。食の安全・機能を理解するために必要な「化学」及び「生物学」等多様で高度な理科系科目のほか、「自然科学」「人間科学」「社会科学」「語学」を通じて、様々な自然現象を論理的に思考する能力と最新の情報等を現場で活用できる展開力を身につけた教員を養成する。

○栄養科学科

本学科は、食品に含有される栄養成分と非栄養成分が生体に与える影響を理解し、食品の調理と加工、食事の提供などに応用されるまでの理論と技術の習得及び人間を対象とした健康の保持・増進と生活習慣病の予防・改善の要となる栄養学を追究するとともに、実践的な理論を科学し、技術を習得することを目的としている。これらの知識や技術にプラスして「高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持・増進のための栄養指導者」としての管理栄養士養成を行っている。そのうえで、理科及び栄養の教員を養成する。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

■基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

[現状説明]

(1) 基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

初代学長横井時敬による本学の建学の精神「人物を畑に還す」との言葉どおり、本学は開学以来全国から若者を集め、地域に貢献する人物となるよう教育してきた。教員養成においても同様で、課程履修学生が卒業後に全国各地で教育者として活躍することを目標とし、この東京農大精神と教育理念「実学主義」のもと、豊かで実践的な知識と技能を身につけた心身ともに健全な教員の養成を目指している。今日、生命科学は進歩が速く、農学や環境科学には社会からの期待が大きい。教職課程ではこのような動向を踏まえ、学部段階では学科の基礎と教員としての基本的かつ実践的な知識と技術を習得させる教育を行う。

以上のような教職課程教育の目的・目標を学科及び取得できる免許教科ごとに大学のホームページにて情報公開するとともに、学生には「学生生活ハンドブック」やガイダンスで周知するとともに、関係教職員には学科等教員会において共有を図っている。

<根拠となる資料・データ等>

- 1-1-1 東京農業大学 HP「教職課程に関する情報公開」
(<https://www.nodai.ac.jp/academics/edu/disclosure/>)
- 1-1-2 学生生活ハンドブック2022
(<https://www.nodai.ac.jp/campus/e-books/HB/>)
- 1-1-3 2022年度教職課程ガイダンス資料

(2) 基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

本学では、全学的に教職課程を運営する組織として、教職・学術情報課程主任（以下 課程主任）、教職課程所属の教員（以下 課程教員）、6学部23学科のうち、各学科から選出された教員各1名、事務局長、教務支援部長、幹事3名（3キャンパスの教職・学術情報課程業務担当課長各1名）から構成される教職・学術情報課程委員会を設置している。委員会は年2回行い、課程履修学生に対する教育及びカリキュラム編成に関する事項について、各学科と教職課程との連携調整を図ることを目的としている。また、必要に応じて教職課程委員会（部門連絡会）を開催し、特定学科に関連する連絡調整を行っている。本学部からも各学科1名が委員に選出され、教職課程の運営を担っている。

教職課程では、教育に関する事項を審議することを目的として、課程主任、課程所属の教授、教務支援部長で構成される教職課程教授会を必要に応じて開催している。その他に世田谷キャンパスでは課程主任、課程教員で構成される課程教員会を毎月開催し、課程の運営について審議、調整を行っている。

世田谷キャンパスの教職課程の運営は、課程主任のもと、課程教員が担当学科の課程履修学生の担任となり、教務課と役割分担で連携を密に行い、協働体制で行っている。また、課程履修学生に対する指導は、教職に関する科目及び教育実習視察は課程教員が原則行い、

教科に関する科目は学科教員が行う。学科教員による研究室でのキャリア教育など全学的な対応を行う中で、教職課程と学部間の協働による教育体制が図られている。なお、毎年度発行する「東京農業大学教職課程 Annual Report」や本学ホームページにおいて教職課程の取り組みなどに関する情報公開を行っている。

学部全体として、各学科教員は研究室活動や卒業論文指導において、学生自身が「実践者」となるだけでなく、実践者を導くために必要な「教員の視点」が持てるよう意識した指導を行っている。

なお、学科における主な取り組みとしては、学科では各学年の担任として4～5名の学科教員が学生の指導に直接あたっている。入学時にはガイダンスを開催し、教職課程について情報提供するほか、個別の案件についても適宜対応している。また、研究室の配属が決定する3年次以降については、卒業論文の作成に係る研究室活動と教育実習や教員採用候補者選考試験の準備が両立できるよう、学科教員が研究室において指導やアドバイスを適切に行っている。さらに教員免許を取得した大学院生が研究室に在籍している場合は、彼等からも履修に係るアドバイスを適宜行っている。

<根拠となる資料・データ等>

- 1-2-1 東京農業大学教職・学術情報課程委員会細則
- 1-2-2 東京農業大学教職課程 Annual Report 令和4年度版
(<https://www.nodai.ac.jp/news/article/2annual-report-1/>)
- 1-2-3 東京農業大学 HP「教職課程に関する情報公開」
(<https://www.nodai.ac.jp/academics/edu/disclosure/>)

[長所・特色]

教職課程 FD・SD、教職課程 Annual Report 発行、部門連絡会、課程教員と教務課による情報交換・検討など課程履修学生に対する指導や個別対応を連携して行う全学的対応・体制・環境を整えている。

[取り組み上の課題]

教職課程の運営に関して、課程教員と学科教員との連携が課題である。社会性や道徳性、教科や学科の専門性といった教員の資質の向上に向けて、課程教員と学科教員が協働体制で課程履修学生に対する教育体制を、さらに強化する必要がある。また、学部の課題として、卒業論文作成に係る実験の遂行等による研究室での活動と教育実習及び採用試験の準備期間などの教職課程に係る活動が重複することや一方に偏ることがないよう、課程教員と学科教員が協働体制の意識を共有して行動することが求められる。

■基準領域2 学生の確保・指導・キャリア支援

[現状説明]

(1) 基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成

基準項目1-1で示した各学科が目指す教員像に向け、1年次のガイダンスを通じて教職課程を学ぶにふさわしい学生像を周知している。教職課程では2年次に「履修カルテ」を配付し、課程履修学生は教育実習指導を通じて課程教員と面談を行い、履修カルテに記録することで課題確認を行っている。また、3年次には「理想の教師像」、「学校研究」など教員に求められる資質・意欲・関心を確認するレポートを提出する機会を設けている。なお、本学では3年生修了時点までに、教職概論、教育原理、教育課程論、教育心理学及び生徒進路指導論の単位を修得することを教育実習派遣要件に定め、教職課程の基礎を習得した学生を教育実習に派遣することとしている。

<根拠となる資料・データ等>

2-1-1 履修カルテ

2-1-2 教職課程履修案内2022

(2) 基準項目2-2 教職へのキャリア支援

本学部は各学科が担任制を導入し、学科担任が学生のキャリア支援を行っている。3年次以降は全学生が研究室に所属するため、研究室において学生のニーズや適性を把握してキャリア支援を組織的に行っている。各学科の課程履修学生へのキャリア支援については次のとおりである。

○農芸化学科

「農学を活かした農芸化学を基盤においた科学」を理解するための専門基礎科目と専門コア科目を設置し、理科及び農業の教員免許取得のための理科教育と農業教育に役立てている。

○醸造科学科

1年次から3年次までの学科開講科目や3年次以降の研究室における卒業論文研究の遂行を通して、自分の学びの基礎となる中等教育における理科の知識や原理がどのように学科における学びの中に包含されるかを意識できるよう支援を行っている。

○食品健康安全学科

企業での研究開発職や公務員などを目指す履修モデル加えて、別途、教員を目指す履修モデルも用意し、学科教員が個別に相談を受けることでキャリア支援を行っている。

○栄養科学科

栄養科学科では課程履修学生に対して、履修モデルを設定するだけでなく、学科教員が個別に対応することでキャリア支援を行っている。

また、早い段階から教育現場を体験するためにも、東京都、埼玉県などの教育委員会による教育ボランティア説明会を実施し、学生の積極的なボランティア活動への参加を推進している。さらに個別面談等を通じて自己評価と学習達成度及課題の確認と補完を行いながら、次年度の履修に向けた心構え及び教員としての資質を考えさせる機会を設けるなどキャリア発達の促進を促している。

教職課程では、3年次の夏から4年次の夏まで30回の教員採用試験対策講座を企画し、教員養成の充実を図っている。また、外部講師によるキャリア講演、中学校の授業見学、教員採用試験に合格した課程履修学生を対象とした現地演習を教育委員会と連携して企画するなど教育実習では学べない授業以外の経験も積ませている。

<根拠となる資料・データ等>

2-2-1 2022年度学部・学科・課程紹介

2-2-2 東京農業大学教職課程 Annual Report 令和4年度

(<https://www.nodai.ac.jp/news/article/2annual-report-1/>)

[長所・特色]

各学科では、個別面談を通じて学生1人1人のキャリア発達を支援し、本人の特性に応じたキャリアを学科教員とともに考え、支える場を設けている。

[取り組み上の課題]

質保証・向上を目的とした課程履修学生の評価基準の設定が課題である。学生が教職課程を履修にあたり、最低限の知識と技能を有しているかの確認、教員としての質を担保する履修条件に係る評価基準を定めることである。現在、各学年に対して評価基準を設定することを検討している。学科の課題としても、課程履修学生からの授業評価及び振り返りが、学科開講の「教科に関する科目」に対して中等教育における理科の知識や原理がどのように包含されているかという意識について、評価基準を設けていないことが挙げられる。

■基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

[現状説明]

(1) 基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

研究室における実験を中心とした諸活動、学会発表等の体験的・実践的な活動及び卒論研究を通じた問題の発見とその解決方法を見出す訓練を行っている。学生の研究においては ICT 機器を活用して情報活用能力を育成している。各学科の現状は次のとおりである。

○農芸化学科

本学科では、理科教育に関連する無機化学実験、分析化学実験、有機化学実験、生物科学実験、食品化学実験、微生物学実験など幅広い専門分野の実験科目が配当されており、学生が各実験における実験原理を理解したうえでグループワークを行うことにより、課題に対して実践的に取り組めるようカリキュラムの編成を行っている。

○醸造科学科

本学科では、学科開講科目の基礎化学実験、微生物学実験、醸造環境学実験、食品化学実験、調味料生産学実験、酒類生産学実験、分子生物学実験において、少人数のグループで各実験を遂行し、結果をグループで考察し、意見交換を行っている。さらに研究室活動では定期的な研究発表会を行うことで、「論理的思考力」、「プレゼンテーション力」、「コミュニケーション能力」の強化を図っている。

○食品安全健康学科

本学科では、理科や農業の教員に必要な基礎的な生物学及び化学の実験実習に加えて、解剖生理学実験や食品安全衛生学実験といった専門的な実験実習を教職カリキュラムに組み入れており、そうした実験実習を少人数で実施している。その中で、自分の考えをグループ内で共有し、他の学生の考えと調整や全体に発表することにより教員に必要な論理的思考力やコミュニケーション能力の育成に取り組んでいる。

○栄養科学科

本学科では、複数の授業でアクティブ・ラーニングやグループワークに取り組んでいる。また、講義科目では TBL を行っている。実験実習科目では、解剖生理学実験、基礎栄養学実験、栄養教育実習、公衆栄養学実習、食品分析学実験、献立作成演習、給食経営管理実習やスポーツレクリエーションにもアクティブ・ラーニングやグループワークを導入しており、多面的に学修効果を高めている。

教職課程では、教職課程の質的水準に寄与するコアカリキュラムを、履修カルテの内容を踏まえて系統的・体系的なカリキュラムとなるよう編成している。授業は、シラバスに基づいて到達目標の達成ができるように設計し、学科内の教務委員会でシラバスの内容をチェックする。課程履修学生には、コアカリキュラム及び教員等育成指標の内容を踏まえて、1年生の段階から教員としての資質を見極める機会や体験を提供し、学び続ける教員

像の確立、実践的指導力の育成を意識して様々な取り組みを実施している。

<根拠となる資料・データ等>

- 3-1-1 2022年度学部・学科・課程紹介
- 3-1-2 履修カルテ
- 3-1-3 教職課程履修案内 2022

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

各学科では、実践的指導力の養成として、学科専門科目知識から基礎的な知識を学習し、実験実習及び卒業論文を通じて、教科に関する専門的な知識やスキルを習得させている。また、教職課程において学習指導案作成の指導、大学行事として学内避難訓練を通じた防災教育、救命講習を実施している。さらに地域行事や災害時における地域へのサポート、小中学校での教育ボランティアなど地域の教育委員会と連携協力体制が構築されている。その他に近隣の高等学校と高大連携事業を実施している。

<根拠となる資料・データ等>

- 3-2-1 2022年度学部・学科・課程紹介
- 3-2-2 免許状更新講習テキスト
- 3-3-3 教育ボランティア説明会資料

[長所・特色]

各学科では、学科毎の専門的知識や技術を実験実習科目を通じて習得し、3年次からは研究室活動を通じてより高度な専門性を身につけている。また、教育ボランティア活動を通じて、教育現場における実践力の養成にも力を入れている。

[取り組み上の課題]

ICT教育の実践的指導力と活用の強化が課題である。学校教育現場でICT教育の充実化が目指されていることを鑑み、ICTのスキルを身につけるにとどまらず、ICTを活用した効果的な授業の在り方、学校不応適や特別支援教育が必要な生徒へのICTの活用、校務、セキュリティへの活用などを含めた情報の力の向上を目指すこととその支援体制と環境の強化のため、一層、教育の充実を図る必要がある。学科の課題としては、基本的なICTスキルを身につけることは問題ないが、より実践的なICTスキルの習得に関しては、卒業論文のテーマによってはその習熟度に差が生じているのが現状であること、実験実習科目が多いため、教育ボランティア活動に割く時間が十分でない可能性があるため、課程履修学生に対して参加状況等の調査を行い、現状を把握することも必要であるとの課題が挙げられる。

Ⅲ 「教職課程自己点検評価報告書」作成のプロセス

本学教職課程の全学的組織である教職・学術情報課程委員会において、自己点検評価の実施及び報告書作成までの手順・スケジュールを検討し、以下の作成プロセスを策定した。なお、本プロセスは、大学設置基準に基づく全学自己点検評価委員会とも情報共有し、常に点検及び見直しを行う。

第1プロセス（令和4年5月）

教職・学術情報課程委員会による自己点検評価の実施内容等の決定



第2プロセス（令和4年6月）

教職課程、担当事務所管（教務課・学生教務課）による法令由来事項の点検等の実施



第3プロセス（令和4年6月）

教職課程委員会と学科による自己点検・評価の手順等の確認



第4プロセス（令和4年7月～11月）

自己点検評価の実施



第5プロセス（令和4年12月）

教職・学術情報課程委員会等による自己点検・評価報告書の承認



第6プロセス（令和5年2月）

自己点検評価報告書の公表



第7プロセス（令和5年3月）

自己点検評価報告書によるアクション・プランへの反映

IV 現状基礎データ票

令和4年5月1日現在

設置者：学校法人東京農業大学					
大学・学部名称：東京農業大学・応用生物科学部					
学科の名称：農芸化学科、醸造科学科、食品安全健康学科、栄養科学科					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
① 昨年度卒業者数					591 人
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					457 人
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も1と数える)					18 人
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					6 人
④のうち、正規採用者数					4 人
④のうち、臨時的任用者数					2 人
2 教員組織					
職階	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	44 人	22 人	0 人	15 人	